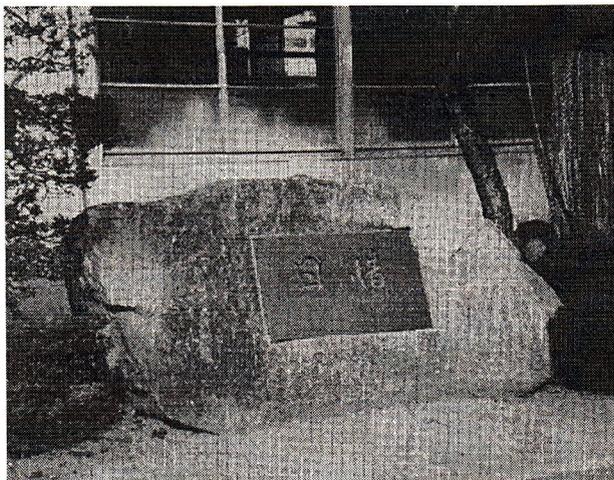


## 新しい学校制度



小学校「日借舎」の記念碑

1872年（明治五年）に政府は、フランスの<sup>きょういくせいど</sup>教育制度を<sup>てほん</sup>手本にして<sup>がくせい</sup>学制を<sup>はつぷ</sup>発布し、<sup>てらこや</sup>寺子屋にかえて全国に小学校をつくらせ、子どもたちすべてが学校で学ぶことをめざしました。同じ年の九月には、

<sup>とちぎまち</sup>栃木町にも学校を作<sup>ほ</sup>って欲<sup>ねが</sup>しい、という願<sup>じゅうみん</sup>いが住<sup>だいひょうしゃ</sup>民の代<sup>ふたん</sup>表者から出<sup>ひつよう</sup>されました。しかし、学校に必要<sup>のこ</sup>なお金<sup>あつ</sup>は政府が一部<sup>ひら</sup>を負<sup>あ</sup>担<sup>じどう</sup>しましたが、残<sup>しゅぎょうりょう</sup>りは住<sup>きふ</sup>民から集<sup>ねが</sup>めるもの<sup>ねが</sup>とされ<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>ために、学校<sup>あ</sup>を開<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>ことはな<sup>あ</sup>かなか大<sup>あ</sup>変<sup>あ</sup>なこ<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>でした。そこで、児<sup>あ</sup>童<sup>あ</sup>から授<sup>あ</sup>業<sup>あ</sup>料<sup>あ</sup>を取<sup>あ</sup>り、さら<sup>あ</sup>に不<sup>あ</sup>足<sup>あ</sup>する分<sup>あ</sup>は、その地<sup>あ</sup>域<sup>あ</sup>の住<sup>あ</sup>民<sup>あ</sup>に寄<sup>あ</sup>付<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>願<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>すこと<sup>あ</sup>にな<sup>あ</sup>りました。では、そのこ<sup>あ</sup>ろ、今<sup>あ</sup>の市<sup>あ</sup>内<sup>あ</sup>に当<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>る地<sup>あ</sup>域<sup>あ</sup>には、ど<sup>あ</sup>んな学<sup>あ</sup>校<sup>あ</sup>があ<sup>あ</sup>った<sup>あ</sup>のでし<sup>あ</sup>ょうか。 <sup>がっこうめい</sup>学校名<sup>かいこうとし</sup>、開<sup>がっこうめい</sup>校<sup>かいこうとし</sup>年<sup>がっこうめい</sup>、学<sup>がっこうめい</sup>区<sup>かいこうとし</sup>内<sup>がっこうめい</sup>の<sup>がっこうめい</sup>町<sup>かいこうとし</sup>・<sup>がっこうめい</sup>村<sup>がっこうめい</sup>を<sup>がっこうめい</sup>示<sup>がっこうめい</sup>す<sup>しめ</sup>と次<sup>しめ</sup>のよ<sup>しめ</sup>うに<sup>しめ</sup>な<sup>しめ</sup>ります。自<sup>しめ</sup>分<sup>しめ</sup>の学<sup>しめ</sup>校<sup>しめ</sup>を<sup>しめ</sup>調<sup>しめ</sup>べ<sup>しめ</sup>て<sup>しめ</sup>み<sup>しめ</sup>て<sup>しめ</sup>く<sup>しめ</sup>だ<sup>しめ</sup>さい。

### < 栃木地域 >

栃木学校 明治六年 栃木町

志殼学舎 明治六年 嘉右衛門町 箱森町 大杉新田 小平柳村

柳菌学舎 明治六年 菌部村 片柳村

平井学舎 明治六年 平井村

沼和田学校 明治六年 沼和田村

象成学校 明治六年 大宮村

分校国宝舎 明治六年 大皆川村

皆川学舎 明治六年 皆川城内町

不如学舎 明治六年 犬塚村 大森村 仲方村

明善学舎 明治六年 吹上村

自彊学舎 明治六年 鍋山村

時新学舎 明治六年 梅沢村 大久保村

堯育学舎 明治六年 惣社村 国府村 柳原村

教類学舎 明治六年 大塚村

静安舎 明治七年 栃木城内村

涵養学舎 明治七年 川原田村

稽式学舎 明治七年 細堀村 木野地村

分校明彝舎 明治七年 星野村

分校執中舎 明治七年 出流村

習幼学舎 明治七年 田村 寄居村 小宅村 大光寺村

国平舎 明治八年 千手村 宮村

尻内学校 明治八年 尻内村 梓村

開盲学舎 明治九年 野中村 新井村 風野村

樋口学校 明治九年 樋ノ口村 仲仕上村 藤田村 高谷村 宮田  
村 久保田村

平柳学舎 明治十年 平柳村

<大平地域>

育才学舎 明治五年 平井村 下皆川村 川連村 土与村

咸享学舎 明治六年 真弓村 蔵井村

開物舎 明治六年 横堀村

知新館 明治六年 西水代村 新村

鼎新館 明治六年 富田宿

弘文舎 明治七年 高島村

貫道学舎 明治九年 東水代村 野田村

<藤岡地域>

日精舎 明治六年 蛭沼村

赤麻舎 明治六年 赤麻村

大前舎 明治六年 大前村

天隋館 明治六年 赤麻村

日昇舎 明治六年 部屋村

三友舎 明治六年 石川新田村

陽新舎 明治七年 小池村

広明舎 明治七年 只木村

維新舎 明治七年 中居村

日精舎分校 明治七年 富吉村

明幹舎壹番分校 明治七年 恵下野村

日精舎貳番分校 明治七年 中根村

明幹舎貳番分校 明治七年 内野村

明幹舎 明治七年 下宮村

広才舎 明治七年 藤岡町

広才舎分校 明治七年 底谷村

扶桑舎貳番分校 明治七年 新波村

達道館 明治十二年 新村

<都賀地域>

淑慎学舎 明治六年 合戦場宿 升塚村 平川村

保和校舎 明治六年 家中村

<sup>いっしゅう</sup> 聿修学舎 明治六年 木村村 大橋村 臼久保村

明倫学校 明治六年 大柿村 深沢村

凌移学舎 明治七年 原宿村

郷保学校 明治八年 升塚村 平川村

至誠館 明治八年 富張村

<西方地域>

日新学舎 明治六年 峰村 古宿村 中宿村 大沢田村 深見内村

田谷村 下宿村 金井村 和久井村 菅原新

田 金崎宿 柴村 富張村

日就学舎 明治六年 真名子村

(至誠館 明治七年 富張村)

近知学舎 明治八年 田谷村 深見内村

金崎学舎 明治八年 金崎宿

就将学舎 明治八年 金井村 和久井村

<岩舟地域>

求道館 明治六年 三和村

養哲館 明治六年 静村

開道館 明治六年 古江村

小野寺学校 明治六年 小野寺村

在新館 明治七年 新里村

在新館分校三谷学舎 明治七年 三谷村

至誠館 明治十年 静戸村

(「栃木市のあゆみ」栃木市教育委員会 「大平町誌」大平町 「藤岡町史」藤岡町 「都賀町史」都賀町 「西方町史」西方町 「岩舟町史」岩舟町から)